

第2章 羅臼町の概況

第2章 羅 臼 町 の 概 況

第1節 羅臼町の自然的条件

第1 位置および面積

羅臼町は北海道の東北端、知床半島の東側に位置し、南は植別川を境に標津町に接し、東に国後島を望み、西北一体は標高 1,661mの羅臼岳を最高峰とする知床連山を境に斜里町と接しています。町の面積は 397.91 k m²で、南北に約 64.0 k m、東西に約 8 k mと細長い地形で、町域の約 95%が森林で占められています。

海岸線から標高差が大きいため平地が少なく、川沿いに広がる平地と、海岸沿いの平地に集落が形成されています。また、半島突端に向けて急峻な海岸線が多く、岬町が集落形成の東端となり、その先の相泊以北は道路も整備されてないため、交通手段も海上輸送に頼らなくてはなりません。しかし、一方で平成 17 年 7 月 17 日にユネスコの世界自然遺産に登録された雄大な自然環境があり、特徴ある原始的景観が現存しています。

周辺地域との広域道路体系は、標津～羅臼間を結ぶ国道 335 号と、斜里～羅臼間を結ぶ国道 334 号によって形成されていますが、国道 334 号は冬季閉鎖のため、国道 335 号が広域的な社会経済活動を担う唯一の通年基幹道路です

第2 地質及び土壌

知床半島地域は新第三系の山脈が主となり、地質は下位より忠類層、越川層、幾品層に大きく三分されている。忠類層は安山岩～流紋岩質溶岩、火砕岩が主体であり、越川層は硬質頁岩、泥岩、砂岩などの碎屑性堆積物を主体としており、幾品層は泥岩、砂岩、凝灰岩が主体となっている。また、第四紀火山列の麓には羅臼温泉が湧出しているほか、相泊と瀬石には海浜に湧出する温泉もある。

第3 気象

気候は 2013 年（平成 25 年）の年平均気温が 5.7 度で、月平均気温は 1 月が最も低く -6.3 度、8 月が最も高く 16.9 度、海洋の影響を受けて内陸の地域に比べて年間の寒暖の差が少なくなっています。また、降水量は、2013 年（平成 25 年）の年間降水量が 2056.0mm で、近隣地域と比較しても多い。

第4 産業の概況

羅臼町の基幹産業は漁業であるが、主力であったスケトウダラ漁が 1990 年（平成 2 年）をピークに水揚げ高が急激に落込み、近年はサケ定置網漁が主力となっている。

併せて水産加工業を中心とする工業も漁業水揚げ高と同様に不安定な状況ではあるが、基幹産業の一翼を担い羅臼町を支えている。

農業は冷涼な気象条件から穀類を主とした農業はほとんど望まれない。このため酪農を主体とした農業を営んでいるが、1999 年（平成 11 年）に 16 戸あった酪農家数が 2007 年（平成 19 年）には 9 戸となり牛乳出荷量も近年減少傾向にあります。2009 年（平成 21 年）4 月より、当町で 35 年ぶりの新規就農で 10 戸となるも、2013 年（平成 25 年）に 1 戸離農し、再び 9 戸となっている。

第2章 羅臼町の概況

第2節 災害の概況

本町の過去の災害状況は、表（羅臼町災害発生記録）のとおりであるが暴風雨、暴風雪（低気圧、台風等）に伴う強風と高波による災害が最も多く以下、大雨、地震災害がこれに次いでいる。

以上、各種災害を概観すると次のとおりである。

第1 雪害

本町の初雪は11月上旬頃であるが、雪質は密度が小さく乾雪が多く寒冷な気湿との関係もあって根雪期間が長く春先の融雪出水のほか、吹雪が交通、通信、産業等に甚大な被害を及ぼしている。即ち、吹雪はバスダイヤの混乱、漁船の遭難及び通行通信障害を続出させバス等の途絶を招来する。また積雪による営農期間の短縮もまた雪害の大きな要素となる。

第2 流氷災害

海水は10月中旬頃すでにオホーツク海北西隅、北東隅において薄氷となり、11月頃には結氷するといわれている。結氷後、次第に厚さと広さを増して南下し、本道オホーツク海沿岸近くまで占めるようになる。1月上旬から4月の間は、全海域に流氷がみられるようになり、厚さも寒凍期には1.5mに及ぶといわれ、北東岸、根室海峡では船舶の航行は不能となり、太平洋沿岸にも流出して沿岸魚介類に被害を及ぼす。

第3 融雪災害

融雪災害は山地が融雪期に入る4月下旬から5月上旬にかけて最も多く、この原因についてはおおむね次のように考えられる。即ち、平地の融雪は徐々に河川に注ぐため急激な増水はおこさないが土地を水で飽和させ、小河川をみなぎらせ出水の要素を作る。このような状態のところには山腹の積雪がとけ急速に河川に注ぎ、平地の融雪によって貯えられた水とともに河川の流れを活発にして一挙に出水することになり、道路、橋梁の破損等大きな被害をもたらすことになる。

第4 地震災害

根室半島沖を含む千島海溝周辺は地震活動が極めて活発であり、これまでに、昭和27年と平成15年の十勝沖地震、平成6年の北海道東方沖地震の大地震マグニチュード8を超える規模の地震や、昭和48年根室半島南東沖地震、平成5年釧路沖地震等マグニチュード7以上の津波を伴う地震が繰り返し発生している。これらの地震により、本町では震度5程度の揺れを観測し被害が発生している。

第5 大雨、暴風、暴風雪災害

冬期間には北海道の南岸を発達しながら気圧が通過することにより、暴風雪被害が発生する。また、低気圧が通過後にオホーツク海で更に発達し、北西の風（出し風）が非常に強くなり暴風被害が発生する。夏から秋にかけては、近年は台風や熱帯低気圧が接近することがあり、大雨や高潮により床下・床上浸水や河川の増水によるはん濫など多くの被害をもたらす。

※過去の羅臼町の災害発生状況については、「資料編 資料3 羅臼町災害発生記録」参照